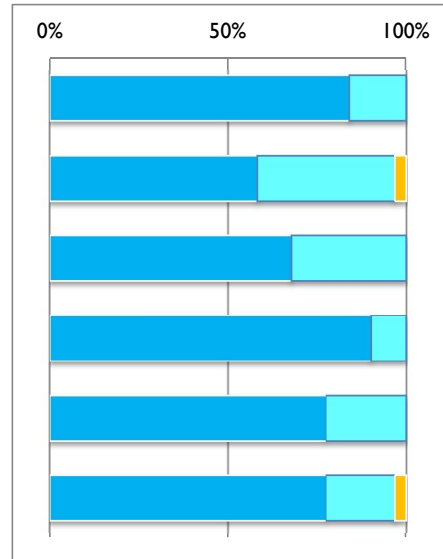


令和2年度甲西中学校学校評価（7月実施） 教職員自己評価の集計結果

4： そう思う 3： ややそう思う 2： ややそう思わない 1： そう思わない

1 学校経営・組織・安全管理

評価項目	4	3	2	1	評 価	
					今回	前年同
1 学校教育目標の達成に向け、学校経営方針に基づき、学校運営がなされている。	26	5	0	0	3.8	3.9
2 教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	18	12	1	0	3.5	3.5
3 教育活動が組織的に計画され、協力体制のもとで、実施されている。	21	10	0	0	3.7	3.8
4 校舎内外の施設設備について定期的に点検し、結果を的確に処理(整備・保全)している。	27	3	0	0	3.9	3.9
5 事故、事件、災害に対して迅速かつ適切な対処ができるようマニュアルを整備し、リスクマネジメント、クライシスマネジメントを行っている。	24	7	0	0	3.8	3.7
6 個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている。	24	6	1	0	3.7	3.6



1 学校経営・組織・安全管理についての自由記述

本校のいじめ防止基本方針を見直し、年度当初に確認し合うことが体制を整えることにつながると思います。生徒指導部会の組織、いじめ不登校防止の研究会計画等の見直しが必要だと思います。

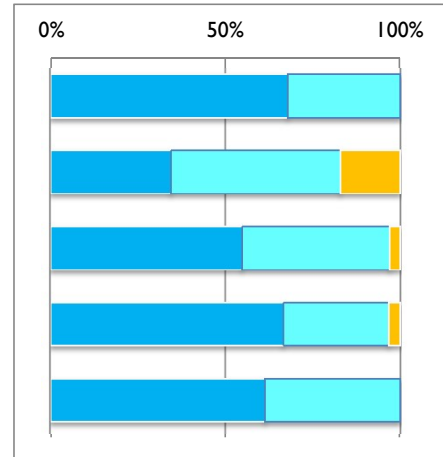
昨年度よりも職員間の状況は良くなっていると思う。分掌ごとの差がありすぎる。

生徒理解票やテストの解答用紙など個人情報の管理を徹底するべきだと思います。甲西中はざっくりだと思います。

教職員の関係性について赴任間もなく詳しくしりません。何を対策するというわけでなく、時間が解決すると思います。

2 教育課程・教科指導

評価項目	4	3	2	1	評 価	
					今回	前年同
7 学習指導要領に基づき、キャリア教育の視点も踏まえた教育課程が編成され、それに基づいた教育活動が行われている。	21	10	0	0	3.7	3.7
8 生徒の学習意欲と学力の向上のため、校内研究の柱である少人数による学び合いを取り入れた授業改善に取り組んでいる。	10	14	5	0	3.2	3.6
9 評価基準を明確にし、生徒の学習状況を分かりやすく、適切に評価している。	17	13	1	0	3.5	3.6
10 3年間を見通す中で計画的に総合的な学習が実施され、成果があがっている。	20	9	1	0	3.6	3.6
11 道徳の授業の充実努めるとともに、他者を思いやる心や規範意識を育てる教育活動を、日常的に実施している。	19	12	0	0	3.6	3.4



2 教育課程・教科指導についての自由記述

2年が取り組んでいるいじめ宣言は自主性が重んじられ良いと思います。生徒の目に触れる掲示物としているのもよい。

コロナのため授業で少人数の取り組みが実施できていません。今後様々な工夫が必要となります。

評価の方法と評価補助簿の活用には課題があると思います。

来年度以降の評価が観点数減少となることを踏まえ、評価方法、生徒への評価の還元方法など課題は多い。

コロナ禍で各先生方、よく対応をしていると思います。
 コロナ禍で教育課程実施において、現在難しい状況にある。
 コロナの影響でグループワークが減っている。

3 生徒指導・教育相談・特別支援

評価項目	4	3	2	1	評価	
					今回	前年同
1 2 生徒の問題行動に対し、報告・連絡・相談の体制が確立され、共通理解の上で組織的に対応している。	23	7	0	0	3.8	3.4
1 3 いじめの早期発見に努めるとともに、早期解決に向けて組織的に取り組んでいる。	24	7	0	0	3.8	3.6
1 4 親との対応や関係諸機関との連携が、スムーズに行われている。(SC, SSW, SS等)	26	5	0	0	3.8	3.6
1 5 養護教諭やスクールカウンセラーなどと連携を図り、教育相談等に生かしている。	27	4	0	0	3.9	3.8
1 6 「子弟同行」が行われ、教師が生徒の模範や理解者・支援者となりえている。	19	11	1	0	3.6	3.4
1 7 不登校傾向のある生徒の支援に配慮し、必要に応じて関係機関と連携を図りながら対応している。	25	6	0	0	3.8	3.4
1 8 特別支援教育について共通理解が図られ、保護者や生徒の抱える諸問題に真摯に対応し、個別の支援計画に基づいて実施されている。	19	11	1	0	3.6	3.4



3 生徒指導・教育相談・特別支援についての自由記述

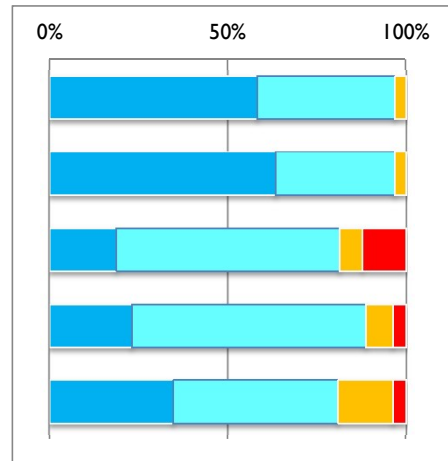
1年情緒学級情報交換会を入学して1か月で実施できました。職員間で情報が共通理解され指導・支援に生かされている。

保護者の協力を得ながら同一歩調で指導にあたるのが難しい。

4 特別活動

己

評価項目	4	3	2	1	評価	
					今回	前年同
1 9 学校行事や生徒会活動(学年生徒会)の取組が、生徒の成長(自主性や協調性)や学校生活の充実につながっている。	18	12	1	0	3.5	3.8
2 0 部活動において、生徒が達成感を得られるよう、活性化するための工夫や配慮がなされている。	19	10	1	0	3.6	3.6
2 1 合唱を推進する活動が計画的、効果的に行われ、生徒の心の教育や集団づくりに役立っている。	3	10	1	2	2.9	3.7
2 2 朝のあいさつ運動などを通して、あいさつができる生徒の育成に努めている。	6	17	2	1	3.1	3.4
2 3 今日的な健康課題(薬物乱用・エイズ・熱中症等)について、専門機関との連携を図り、授業や講演を通して指導がなされている。	9	12	4	1	3.1	3.5



4 特別活動についての自由記述

今季はコロナの影響で合唱関係の評価はできない。

コロナ禍で様々な活動が規制されて大変ではあるが、各部でよく頑張っていると思う。

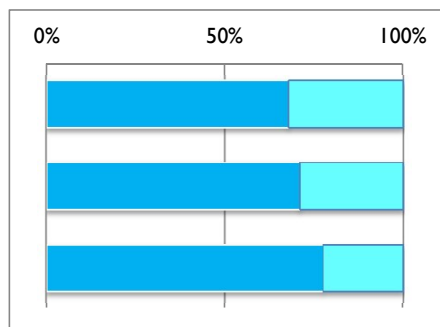
専門的な機関や講師招聘がなかなか実現できず難しい状況である。

自らあいさつができていない生徒が少ない。

生徒の自主的な活動を今後は仕組みたい。
コロナで合唱ができていないのでわかりません。

5 保護者・地域との連携

学校評価項目	4	3	2	1	評 価	
					今 回	前 年 同
24 関係諸機関との連携により、外部との信頼の輪が広がり、教育活動や生徒指導に役立っている	21	10	0	0	3.7	3.6
25 生徒の学習や生活の様子を保護者に知らせ、保護者との相互理解を図り、連携している。	22	9	0	0	3.7	3.4
26 授業参観や学校開放日を適切に設けたり、学校・学年・学級だよりやホームページを活用したりして、学校内の情報を保護者や地域に適切に伝えている。	24	7	0	0	3.8	3.4



5 保護者・地域との連携についての自由記述

通知がメールやホームページにアップされ活用されている。内容により「お知らせ」、「学校安全」のどこを見ればいいのか迷う場合があります。

保護者にいじめ防止対策について周知していただくために、ホームページの見やすいところに掲載してほしい。(対策済)

6 26項目以外の自由記述

一人ひとりの心の不安定さが心配である。特に目立つことがなく、だれにも言えず抱え込んでいる子がいる気がする。

コロナ対応は迅速に対応でき良かった。学校体制が整い職員が同じ方向を見て関係機関と連携がとれたことは素晴らしいと思います。保護者の信頼がベースにあり職員集団が力をだせました。

はじめに

今年度の職員自己評価の傾向は、昨年と同時期の値を13項目で上回り、8項目で下回った。昨年より評価が下回った項目が多くなったのは新型コロナウイルスへの対応が大いに影響を及ぼしたと考える。5月末に新学期が開始され、修学旅行、校外学習、部活大会は延期や中止となり、総合学習や学活も教科の時間に振り分けるなど大きな変化を強いられた。更に、保護者と学校の連携を深める家庭訪問、PTA総会、授業参観等も中止となり二学期以降の取り組みを更に工夫していかなければならない。また、生徒の新しい生活様式への指導やSNSトラブル対策、学習指導要領の本格実施に向けた授業実践や研究は待たなしで行っていかなければならず、安全対策との両立が今後も課題となる。職員の負担は増加しており、一層の業務改善やチームとしての取り組みが重要となる。

1

・ほとんどの教員がどの項目においても肯定的な評価をしている。特に、「5の事故、事件、災害に対する対応」では新型コロナウイルス対策が功を奏し、ここまで大きな被害はでていない。職員の奮闘を評価し、感謝したい。

・「1学校運営」、「3協力体制」の項目は評価平均は昨年度とほとんど変わらず、高い評価値を示している。「2教職員間の相互理解」は他に比べて低い傾向にありチーム力を発揮するため会議ばかりでなく、普段の会話やインフォメーション等の活用から情報交換を密に行い組織的向上に努めていく必要がある。

・新学習指導要領への対応、新型コロナウイルスへの対応、不登校・SNSトラブル等の生徒指導は、負担増となる。一人に仕事が偏らないよう、チームで取り組みながら更なる業務改善と協力体制構築に取り組む必要がある。2学期は支援担当教員の増員や学校応援団の活用、授業分担の見直しを実施する。

・「5リスクマネジメント、クライシスマネジメント」に関しては、養護教諭、生徒指導主事を中心に取り組まれている。特にコロナ対策はここまで適切に実施され感染を防いでいる。避難訓練はシェイクアウト訓練のみにとどまっており、今後避難・誘導について早期に取り組む必要がある。

・現在打ち合わせは校務支援システムの活用によりおこなっている。会議の削減には成功しているものの、周知徹底に課題を残している。締め切りのある提出物は週予定で確認したり、事務から確認の回覧をおこなうなど工夫している。

2 教育課程・教科指導について

・「8校内研究の柱である少人数による学び合いを取り入れた授業改善の取組」について評価が下降した。主体的・対話的で深い学びの実践は引き続き校内でも取り組み、目標の提示やまとめなおしは定着しつつある。しかし、本年度は新型コロナウイルス対応で対話的な学びは実施しにくい状況にあり、小中連携による情報交換も行えていない。年度内には一人一台タブレットの導入も決定しており、話し合い活動や発表の方法が今までとは全く異なる形態で実施されていくことになる。コロナ禍を大きな変換点ととらえ授業改善に積極的に取り組んでいきたい。

・評価については保護者に分かりやすい評価の基準や実施方法を検討していく必要がある。現在、教科担任から課題のある生徒の取り組みを担当に提示する取り組みも実施され三者懇談を通じて生徒に還元している。

・「11道徳教育の充実」については、評価は向上している。昨年度より完全実施となり、コロナの影響はあるものの計画的な実施が行っている。今後は、教科書を使つての道徳の授業ばかりでなく、考え議論することや体験を通して学ぶ道徳など今後も研究及び学習を深めていく必要がある。

・「7キャリア教育」においては甲西中は3年間を見通した系統的な取り組み(職業調べ及び体験校外学習・修学旅行平和学習)を行っている。しかし、新型コロナウイルスのためほとんどの総合学習を実施していない。蔓延状況により更なる延期と中止を検討せざる負えない状況である。生徒のやる気を高め、適切な進路選択が行えるよう教育課程の柔軟な変更調整が必要である。

・キャリアパスポートの取り組みがスタートしたが、いままで行ってきた総合学習や学活時と同様の取り組みが行われている。際立った成果は今のところはないが、その時々に応じて各自の進路について考えをまとめることを通して変更調整を繰り返すことが進路選択をじっくり考えさせていく事となると考える。

3 生徒指導・教育相談・特別支援について

・昨年度に引き続き、問題行動は少ない。しかし、コロナ禍におけるSNSのトラブルが増えており、1年の情報集会実施ばかりでなく、普段の授業から携帯電話の使い方の指導を実施している。また、通知や懇談時に保護者の協力を依頼し取り組んでいる。

・「17不登校」「12報告・連絡・相談」についても評価は大きく向上している。不登校生徒数は、昨年度より減少した。特に臨時休業明けに復帰した生徒が多く、一年を通してやる気を持続させていく策が重要と考える。

・「15養護教諭やスクールカウンセラーとの連携」への評価は非常に高い。不登校や特別の支援が必要な生徒の対応についてケース会議や個別の事例を踏まえた支援会議を本年度も実施している。不登校生徒や保護者がカウンセラーと信頼関係を築くことができ、登校できないことにとらわれず解決を模索する保護者の前向きな姿勢を感じる。多様化する生徒の課題をこうさいこ調査や二者懇談、三者懇談、健康調査、デイリーライフの複数教員での添削など様々なアプローチの成果が現れてきている。

・「13いじめの早期発見、早期対応」については、「こうさいこ調査」でいじめを報告する生徒がおり現在も対応中である。今後も改正した「学校におけるいじめ防止基本方針」を全教職員で確認し、生徒指導部会を中心に組織的な対応に努めていきたい。

4 特別活動について

・「21合唱活動」は、音楽の授業以外ほとんど行われていない。二学期には合唱を披露する合唱コンクールも予定されており、失われた時間と経験を取り戻すため、例年以上に計画的な取り組みを仕組んでいかねばならない。若手職員が増加している中、指導方法の学習会も検討していく。

・「19学校行事や生徒会活動」「22あいさつ運動」「23健康課題についての授業や講演」等の学校行事や生徒会活動についても本年度は縮小した取り組みが行われている。生徒の自主的な取り組みは学校再開後徐々に増えてきているものの評価は大きく下がっている。今後学園祭や合唱、あいさつ運動、縦割りの取り組み等を実施し自主自立の雰囲気醸成していく。

・部活動については、コロナでほとんど活動できなかったが短いなりに7月を中心に大会に向けて取り組むことができている。安全との両立に取り組むことで職員・保護者に大きな負担をお願いする中で朝練習も行えた。結果は生徒、保護者、教職員とも例年と同じように高い評価を受けている。部活動は、結果だけでなく、異学年の集団における協調性を育む場として、中学校生活の中でも重要な活動になっている。しかし一方では、生徒の学習時間の確保や教師の時間外勤務の問題など課題を抱えている面もあるので、今後も「甲西中学校部活動の方針」にのっとり、メリハリを持った活動をしていく必要がある。

・「23今日的な健康課題」については、保健委員会や給食委員会が食育と感染症予防、熱中症予防啓発運動に取り組むことができた。

5 保護者・地域との連携について

・「25 26保護者との連携」については、例年行われている授業参観や三者懇談、合唱発表が行われず保護者が直接学校の様子を見ることができていない。その分学校通信、学年通信、学級通信、保健通信、図書通信を計画的・定期的に発行し情報公開に努めている。また、メールとホームページを活用し、情報発信を行うことで保護者への情報提供を確実に行った。学校評価は例年を大きく上回っている。2学期には直接学校に来校していただく機会を増やし連携を密にしていきたい。

・「24関係諸機関との連携」については、スクールサポーターや警察など生徒指導面で支援していただいている。また、市の福祉総合相談課とコーディネーターが中心となり情報交換を行い、特別な支援を必要とする生徒への対策会議を実施し必要な支援を実施している。日頃の授業などの支援については、学校応援団の募集を行い今後清掃活動への支援、花の定植作業や調理実習の補佐、合唱指導、教科学習の補助等に協力してくれる予定である。

・苦情を含め、保護者が学校に連絡をしてくることは、保護者との連携を深めるチャンスとしてとらえ、今後も保護者の声を聴く姿勢を大切にしながら、その対応に努めていきたい。

6 26項目以外について

・経験が浅い若い職員が増加している。また、本年度は新型コロナウイルスにより研究・研修が縮小している。そのため、夜遅くまで教材作成や採点に時間を費やしている職員が増えている。授業時間不足のなかで、教育課程を達成することは普段以上に労力が必要となり、ベテラン・中堅教員の支援や指導が大切である。子供たちの生きる力の育成のため、学校全体をあげ再度計画の見直しを行い、授業を確実に進めていくことが大切である。今まで甲西中で行われている学習資料・教材を活用、先輩教員の指導のもと効率的に授業を実施していく取り組みや、先輩教員によるスキルの向上と伝達のため校内研究及び研究授業の実施、OJTの推進を職場全体をあげて取り組む必要がある。

・コロナ禍ではあるが、生徒指導面では安定した学校運営が実現している。特に職員の努力により落ち着いた環境が実現し教育活動が実践できているのが大きい。教師と生徒が一つとなり学校教育目標の達成に向け努力を行っている。今後、教育の質を維持、向上させるために、1学期に不足した自主的な生徒活動の促進や体験的な取り組みを実施し、一人ひとりの生徒の個性を伸ばさせ、進路実現にむけて取り組みたい。

・コロナ禍において保護者と地域が連携していくためには、授業の公開、合唱や学園祭、マラソン大会、講演会、学校応援団等の機会を充実しなければならない。更に自立的な学習や体験学習を増やし、深い学びの実現すること、子どもたちの目を社会や世界に開き将来の社会や地域を支える人材を育成していくことがこれからの甲西中の使命となる。